日本老友新聞
株式会社老友新聞社
発行人・高谷雅史
東京都文京区
西片1—15－10
〒113—0024
電話
(03)5689—7090代
FAX
(03)5689—0965
振替口座
00140—9—27199

半世紀の歴史に輝く日本唯一の長寿者新聞
老人クラブに最適の資料

高齢者でも気軽にペットが飼える

日本ドッグホーム協会の白井さん

今、世の中は空前のペットブームだ。一度でもペットを飼ったことがある人なら、ペットの癒し効果を身をもって知っていることだろう。ペットの飼い方も欧米に倣い、家族の一員として扱われるようになった。逆に見ると、飼う側の負担も大きくなってきたということだろう。しかも、自分が高齢になると様々な問題が出てくることもある。日本ドッグホーム協会は、高齢者にペットを無料で貸し出している。そこに、高齢者とペットとの問題や、解決策が見えてくる。

無料で犬を貸します

日本ドッグホーム協会 60歳以上を対象に

ペットセラピーは認知症にも効果があるという報告も

作業療法、音楽療法、回想療法など、認知症に改善が見られるという療法は多々ある。動物療法（ペット・セラピー）もその一つだ。

動物と触れ合うことで脳の活性化につながるのだそうだ。また、時にはリウマチのために動かなくなった手が、犬に触れているうちに動くようになったというリハビリ効果もあるそうだ。同時に、家庭や特別養護施設、老人ホームでは、癒しの意味で動物と触れ合う機会も増えてきている。だが、一般家庭で、特に高齢者のみの家庭では、相手が生き物なだけに遇られない問題があるのも事実だ。

日本ドッグホーム協会の白井睦子さんが、高齢者のペット事情を解説する。

「例えば、飼い主が高齢になり、病気がちになったとします。次第に入退院を繰り返すようになると、心配なのはペットのことです。ペットホテルに預けるにしても、その費用はバカになりません。逆に、ペットの方が病気になることもあるでしょう。最近は医療技術が発達したので、ペットの寿命も長くなりました。と同時に、中にはこんな例も。

「飼い主の健康が思わしくなく、介護施設への入居を勧められている方がいました。でも、その方はペットを飼っていて、自分以外にはペットの世話をしてくれる人はいないというのです。そのような場合、ペットは致死処分されます。飼い主さんにとっては家族の一員。その方は、ペットを処分するくらいなら、自分は施設には入らないと言うのでした」

このような場合、無料でペットを引き取ってくれるのが、日本ドッグホーム協会だ。白井さんは言う。

「六十歳を過ぎたら、ペットを赤ちゃんから飼うのは止めた方がいい。ペットよりも自分の方が長生きするとはかぎりませんから」

貸し出す期間も臨機応変に

しかし、冒頭でも述べたように、ペットは人の気持ちを和ませてくれる貴重な存在でもある。まして、長くペットのいる生活を過ごしてきた人にとっては、ペットのいない生活は計り知れないほど寂しいものだ。中にはペット・ロスといい、ペットを亡くしたことにより大きなショックを受ける人もいる。そんな心の空間を埋めてくれたり、癒しを与えてくれるのが協会の、ペットの無料貸し出しだ。

「高齢者の方から引き取った動物を、貸し出すというシステムです。貸し出す期間は1日でも、1週間でもいい。もちろん、最期を看取るつもりで借りてくださってもかまいません。長くレンタルするつもりだったけれども、途中でやめるということもできます。ペットと飼い主さんの相性もありますからね。また、ペットの方に介護の必要が出てきたという場合、その時点で借用を止めてもかまいません」

条件は六十歳以上であること。多くの場合、犬種を指定するので、現在は約三十組が待っている状態。同時に一般家庭での里親も募集している。詳しくは、日本ドッグホーム協会（静岡県静岡市清水区大坪二—六—十八、電話〇五四三—四四—一五四〇）へ。

どの犬もみんな綺麗に保たれている

犬舎だけでなく猫舎もある